



# 自衛隊栃木地方協力本部



イオンモール佐野新都市に設置してある看板



1 1/2トラックに乗り込む子供たち (イオンモール佐野新都市)



防弾チョッキを試着する来場者 (イオンモール佐野新都市)



車両の展示 (イオンモール佐野新都市)



道の駅「もてぎ」車両巡回広報の様子



「自衛官募集」を掲示した車両が宇都宮駐屯地を出発 (中央即応連隊)



道の駅「はが」車両巡回広報の様子

サマキャンの開始週に計画の概成、命令の発出、事前偵察及び決起集会を済ませ、準備はなんとか整った。あとは、計画を実行するのみである。

7月21日(金)、天気予報は曇り一時雨、絶対のサマキャン日和とは言えないが、朝から大雨ではないだけましである。募集課内にサマキャン指揮所を立ち上げ、市街地広報先発の組を0545に送り出した。栃木地本のサマキャンが始まった。市街地広報は県内を5個地域に区分、実施時間もそれぞれであるので、状況把握を確実にするため、出発、到着、活動開始、終了、活動地域離脱時と各給節時の報告要領を定めた。県内主要駅の他、大学、商業施設で防衛省職員と協力団体員が一丸となり、初めて軽装甲機動車(LAV)を配置して広報展に臨み、家族連れや高校生が普段見慣れない車両に興味を示していた。車両巡回広報は県内を2個地域に区分、北回り、南回りの2個梯隊を編成して、道の駅を中心として各施設を巡回した。両経路ともに総距離が200kmを超えるため、安全管理を第一優先として実施することに留意して、事前偵察時に確認した注意を要する地点は適時適切に伝達し、事故の絶無を図った。巡回経路のひとつである商業施設では1時間の車両・装備品展示を実施し、輸送防護車の迫力に圧倒される方や、中型車両の荷台に乗って楽しむ家族、防弾チョッキに「着られる」子供たちの姿も見られた。

サマキャン初日の広報要領についても、普段の実施後にSNS等に公開する要領ではなく、リアルタイム広報を追求した。このため、各活動地域にパラスよく広報渉外室員及び募集課員を配置して、撮影した写真を地本端末に送信、指揮所勤務のリアルタイムを広報室員が逐次、情報資料の収集・処理・公開を円滑に実施して、広報効果の向上を図った。

こうして、栃木地本のサマキャン初日は、南回りの車両巡回広報梯隊が1836に宇都宮駐屯地に到着、最終的な有無を確認して幕を閉じた。成果としては、市街地広報において今年度受験予定者の獲得、車両巡回広報においては1件の事故、故障もなく各経路、経路地を巡回することができた。また、栃木県内の防衛省職員、各協力団体員の団結を強化することも、採用広報の重要性を改めて認識してもらったことかと思料する。

募集班長(古川3陸佐)は「サマキャンは8月31日(木)まで実施される。暑い夏はまだ始まったばかりである。自衛隊は実際は明るくて楽しい職場であることが少しでも伝わるよう、参加者全員が口角を上げ、テンションを上げ、広報効果を上げていく」と更なる熱き思いを語っていた。

栃木地本は「本サマキャン初日の市街地広報実施に当たり、支援していただいた北関東防衛局宇都宮防衛事務所、航空学校宇都宮校、中央即応連隊、東部方面特科連隊、第307施設隊、募集相談員及び家族会員に感謝の意を表すとともに、栃木地本はより一層厳しさを増す募集環境を克服するため、今後も栃木県の総合戦闘力を発揮して各種活動にまい進していく」としている。



8月20日、翌日の「サマキャン」にむけ、決起集会を行った(宇都宮合同庁舎屋上)